



2012. 12. 21

**創業50周年記念、思い出をたどる(5)**

▽50周年を迎えるー2012年(平成24年)5月31日

1962年(昭和37年)創業の「ピノッキオ」は50周年を迎えた。現三代目山中崇裕としては、譲り受けてから28年目になる。50年前はミナト神戸でも、ピザをメニューにした店は珍しい時代だったが、いまや神戸っ子に限らず、その後、転勤や結婚で転居された方など、ファンは各地におられ、帰省シーズンにはなつかしい方の家族連れでの来店や、家族3世代で楽しんでおられる姿も多くみられる昨今だ。

▽「1234567」枚目が到来ー同年8月18日

番号が付いたピザが知られるようになると、これまでも語呂合わせなど縁起のいい番号をねらう方もいたが、今回は「上り数字が狙い目」になり、それがくしくも50周年に重なり合うことになった。メディアに紹介されたこともあり、Xデーを狙うお客さまも増えて、次第に枚数が増え始めた。月に1700から2000枚出ているが、来店数は天候により、また、今年はロンドン五輪のテレビ観戦にも左右されXデーは間際まで読めず、方や、帰省客が増え2200枚ペースに加速されて18日(土)を迎えた。当初は予約で満席のはずが、昼過ぎから阪神間は悪天候になり、神戸では雨がぱらつくなどでキャンセルが続出。6時半の見込みが遅々として進まず、楽屋裏はやきもきしたのだった。

▽この日はゴールドシートがー

この番号だけはいつもの紙ではなく、合金(金9/24)の0.2ミリ厚のシートに「1234567」をレーザープリントした特注品を用意。ロンドン五輪で日本選手団の「金メダル増産」を受けて、「ロンドンでも金、神戸でも金」を演出。当たったのは、家族4人でご来店の47年前からのご常連永尾暢夫さん(堺市在住)だった。この模様は、夜10時前には新聞、通信社、インターネットにより全国に発信され、また、読売テレビ「朝生ワイドす・またん!」でも「記録に挑戦神戸のピザ」として厨房での調理工程でのヒミツも合わせて紹介された。



株式会社コロディ

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 2-3-15 石田ビル  
TEL・FAX 078-334-0701  
URL: <http://www.collodi.co.jp>

▽ノーベル文学賞を待ちこがれる夜、惜しくも逃がすー同年10月11日  
村上春樹さんの小説に登場したご縁で、毎年10月になると、メディアからお祝いのコメントを求められるここ数年。今年はさらに受賞への期待が大きくなり、50周年に受賞が重なればこの上ない喜びと、お客さまとともに「待ちこがれる夜」を準備した。小説に登場したシーンを再現すべく、ビール、シーフードピザ、「辺境・近境」の文庫本、さらに村上春樹さんと同じ「958816」番の記念シートを特別に作成しセットで「1984」円の特別メニューを10名限定で用意。さらに、お祝いの垂れ幕が下りて、クラッカーがなるという演出を凝らし、メディアに向けて「絵」になる構成に。ご存知のごとくあの狭い店に、新聞・テレビのほとんどの社がカメラを構えたが、「残念」なこと。でも、それはそれで、「残念の弁」の取材に切り替わったので、お客さまも大いに楽しまれた。その日は、村上春樹さんの行方が知れず取材できないだけに、メディアからは、「また来年も・・・」と期待の声が聞こえてきた。今年は幻になった「1Q84」のメニュー、来年は実現するだろうか。

▽「丹波に眠れる獅子、神戸へ」30年数年ぶりの里帰りー同年12月7日  
店の奥に見えるベルにはよく磨かれた獅子のマークが光っているが、上部にあるはずの「1962」の数字が見られない。いつの間になくなっていった。また下辺のリボンには文字が見られない。磨いている間に消えてしまったようだ。1970年(昭和45年)の大阪万博を機に、大阪店が約9年間営業していたことは第2回で述べたが、この閉店の際、店内に掲示されていたエンブレムが、神戸と大阪店の常連だった長沢彰彦さん(篠山市在住)に譲られて、ご自宅の書庫に保存されていたことが今回判明し「神戸・ピノッキオ」へ「里帰り」した。縦29、横27センチとやや大きく真鍮製。下辺のリボンに、「PIZZA PINOCCHIO HOUSE」の文字が浮き出ている、これほど手の込んだものだったとは驚きだ。山中オーナーは、「あのとき、店名を替えなくてよかった・・・」と。(続く)



(写真：山中オーナーへ戻るエンブレム)